

## 日本赤十字看護大学に入学された皆さんへ

この春、めでたく日本赤十字看護大学に入学された学部生及び大学院生の皆さん、まことにめでとうございます。看護の道を志し、希望に燃えてその一步を踏み出した皆さんを、私たち教職員一同は、すべての在校生と共に、心から歓迎いたします。

新型コロナウイルス感染症の発生により、まことに残念ながら、今年度の入学式は中止のやむなきに至りました。日本赤十字社においても、政府の要請を受けて、早い時期から、赤十字病院の医療スタッフを中心に様々な活動に懸命に取り組んでおりますが、一日も早い事態の終息を祈りたいと思います。

ご承知のように、当学園の設立母体は日本赤十字社ですが、その日本赤十字社は、本年で創設143年を迎えます。現在では、全国91に及ぶ日赤病院の運営や血液事業、各種の社会福祉事業などを幅広く展開しておりますが、その創設間もなくから、救護員の養成事業が始められました。それは、紛争や災害で傷ついた人々に支援の手を差し伸べるという、赤十字の担う責務、使命を果たすことを目的としたものであったわけですが、同時に、日赤における看護教育のスタートでもありました。

本年は、それからちょうど130年という節目の年に当たります。この間、長きにわたって、国内外で活躍する多くの優れた看護職を社会に送り出してまいりましたが、看護職の養成が日赤にとってきわめて重要な柱であることは、今日においても、いささかも変わりません。

皆さん方は、赤十字の理念を建学の精神とし、多くの先輩方によって育まれてきた歴史と伝統を持つ本学で学ばれるわけであります。是非、そのことの意味を、折に触れて考えて欲しいということを、まずお願いしておきたいと思います。

本学は、赤十字による初の4年制看護大学として昭和61（1986）年に開学し、大学院看護学研究科修士課程、博士課程を設置するほか、早くから学術研究機関として充実を図りながら、日本赤十字社における看護教育の、更にはわが国の看護教育の先駆的、指導的役割を担ってきたという、誇りと自負を持っております。

また、今春からさいたま看護学部が開学し、広尾キャンパスと合わせて新たなスタートを切りますことは、本学の歴史の上に大きな1ページを加えるものと言えることが出来ます。

わが国は、少子高齢化の加速をはじめとする社会構造の激しい変動のただ中にあり、看護を取り巻く状況もまた、大きく変化しております。

日進月歩といわれる速さで進歩・高度化する医学・科学を背景に、看護の現場においては、高い専門性と豊かな教養が、これまで以上に必要になってまいりました。また、その活動や仕事の範囲も、病院や施設だけでなく、地域の人々の健康と生活を支えるものに広がろうとしており、こうしたことから、プロフェッショナルとしての役割と力量が一段と求められています。

本日入学された皆さんには、これから、看護に携わる者としての心構え、そして必要な知識や技術をしっかりと修得していただくこととなりますが、それは決して容易なことではありません。時に壁にぶつかり、あるいは挫けそうになることもあろうかと思えます。しかし、看護の道を志した初心に立ち還ることで、必ず乗り越えられるものと信じております。皆さんがあらゆる可能性に果敢に挑戦し、それぞれの人生を逞しく切り開いていく姿を楽しみにしています。

同時に、このキャンパスは、生涯を通じる仲間たちとの出会いの場でもあります。本学園には全国に6つの看護大学とひとつの短期大学がありますが、志を同じくする学生同士の交流も年々盛んになってきております。ぜひ、ネットワークを大いに広げ、貴重なキャンパス・ライフを存分に楽しみ、豊かで実りある大学生活を送られるよう、併せてお願いしておきたいと思えます。

私たち教職員も、今日この日に第一歩を踏み出された皆さんが、新しい時代を担う看護のエキスパートとして羽ばたかれる日まで、全力をあげてお手伝いすることをお誓いし、私の歓迎の言葉といたします。

令和2年4月

学校法人日本赤十字学園

理事長 大塚 義治